

オスプレイ 2 機の国内墜落事故に対する決議

12 月 13 日 21 時半頃、米海兵隊普天間基地所属の垂直離着陸機 MV22 オスプレイ 1 機が、名護市安部（あぶ）の沿岸から 80 メートルの浅瀬に墜落し、機体が大破した。乗組員 5 人は全員が救助され、2 人が負傷した。墜落現場は、民家が並ぶ集落から数百メートルしか離れておらず、取り返しのつかない重大事故の可能性もあった。

オスプレイは開発段階の 1990 年代から墜落など重大な事故を続発させ、国内での重大事故は 2010 年 10 月の配備以来であり、沖縄県民上げて配備撤回を求めたにもかかわらず、配備を強行した日米両政府の責任は重大である。

名護市安部（あぶ）沿岸の浅瀬での墜落について政府は、「不時着水」と発表したが、安部沿岸の岩礁で大破した機体をみれば、墜落であることは明白であり、アメリカの報道では『クラッシュ』とされ重大な事件とされた。

また、同日には、別のオスプレイが普天間基地内に胴体着陸していたことも明らかになった。

日米両政府は、50 機を超えるオスプレイを配備し日本全土を訓練・出撃拠点にしようとしている。今回の事故は、横田基地への配備計画が発表されている中の事故であり、周辺住民のオスプレイの安全性への懸念が大きくなっている。

日米両政府に対し、原因究明と再発防止策、安全性が確認されるまでの飛行中止、迅速で正確な情報提供を求めることを決議する。

平成 28 年 12 月 16 日

清 瀬 市 議 会